



東秩父中学校だより

村の宝（子ども）が輝く学校

令和7年11月17日

第8号

文責 田端 隆二

50周年の節目にあたり

先日11月8日（土）に東秩父村立東秩父中学校創立50周年記念式典が高野貞宜村長をはじめ、大変多くの方々にご臨席を賜り、盛大に挙行できました。また、卒業生等大変多くの方にご来校いただき、盛大に開催できたこと、関係されたすべての方に改めて感謝いたします。

本校は昭和50年、旧櫻川中学校を前身とする西中学校と旧大河原中学校前身とする東中学校が統合され、開校しました。開校当時は生徒数が230名だったそうです。この50年間の生徒数の推移を調べてみましたが、開校時の230人をピークに増減を繰り返し200人前後を保っていたようです。しかし平成3年に200人を割り、平成23年からは二桁となって減り続け、現在の37名に至ります。この間の卒業生は2400人を超えるが、改めて本校の歴史を感じました。

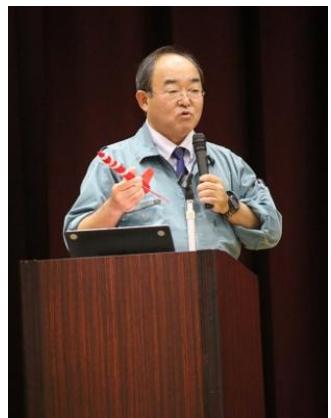
式典では実行委員長と来賓の高野村長のあいさつの後、在校生による全校合唱、実行委員長による卒業アルバムのフォトムービーが披露されました。生徒の皆さんには合唱や式に臨む姿勢はもちろんのこと、準備・片付けなどもとても積極的に、かつ真剣に取り組んでくれました。

東秩父中学校創立50周年というこの大きな節目の時を、校長として素晴らしい生徒たちと保護者の方々、そして在職する職員と共に祝えることを大変うれしく、そして誇りに思います。ありがとうございました。

50周年記念講演「思うは招く！」

50周年記念式典の後は、北海道から植松電機の社長、植松努様をお招きし、「思うは招く！」とのタイトルでの記念講演を行いました。植松様のご講演の中には「夢があれば何でもできる」「初めからあきらめ方を知っている人はいない」「やったことのない人があきらめ方を教える」「ちがうはすてき！」「誰もやったことのないことは、誰も教えてくれない」「人は足りないから助け合える」「人を助けるのに必要なのはやしさ」「『どうせ無理』ではなく『だったらこうしてみたら？』」「これからは、普通や常識に疑問を感じる人が必要」「自分をあきらめないことが世界を救う第一歩！」など、他にもたくさんのキーワードがありましたが、大きく共感させられる言葉、ハッとさせられる言葉、そして勇気づけられる言葉がたくさんありました。

また、講演の後は櫻川小学校の1年生から6年生までの児童と本校の1年生から3年生までの生徒を対象にロケット制作教室とロケット打ち上げ実験が行われました。子どもたちは植松様の「作り方は教えません。助け合って何とかしましょう！」の言葉の後にそれぞれ作り始めました。そして「自分のロケットを自分の手で作り上げ、打ち上げる」というとても貴重な体験をさせてもらいました。この経験は子どもたちに大きな自信を与えるとともに、課題解決能力を大きく育む学びとなることでしょう。そして、自分が作り上げたロケットが青空に向かって音を立てて飛んで行った瞬間の感動は一生忘れられない宝となることを願います。



比企地区英語弁論大会

9月18日(金)比企地区英語弁論大会が東松山市高坂市民活動センターにおいて行われました。本校から3年生が生徒代表として出場しました。英語が苦手は私には、内容まではなかなか聞き取れませんでしたが、夏休みからの取組の成果もあり、とてもきれいな発音とボディランゲージを加えた豊かな表現で堂々としたスピーチでした。



小中合同音楽会

10月24日(金)今年で4回目の中小合同での開催となった音楽会が、今回は東秩父コミュニティセンター「やまなみ」の大ホールで開催されました。これから児童生徒数の減少等を鑑みての試みでしたが昨年までの体育館とは違い、多少の狭さを感じたり、床が絨毯のために音が吸収されたりしてしまう等の問題はあったようです。しかし、豊富な照明設備により視覚的にはとても児童生徒が映えるステージでした。他にも課題はありますが、小中一貫に向けた連携という大きな目的のためには、課題の共有は必須です。今後に生かしていきたいと思います。



萩平地区竹縄づくり体験学習

10月30日(木)萩平公会堂・常光寺本堂にて梅澤邦夫さんはじめ多数の保存会の方々のご指導の下、1年生が恒例の竹縄づくりを体験しました。かつては全国で使用されていた竹縄ですが、その製造技術を伝承しているのは、本村の萩平地区だけだそうです。伝統技術と同時にその伝統を守ってきた方々の心にも触れることができた貴重な体験でした。



城山保育園にて保育実習

10月22日(水)村立城山保育園において、3年生の家庭科の授業の一環として保育実習が行われました。城山保育園も年々園児の数が減少しています。また、今年度の3年生は人数が多いため、数少ない園児を何人もの中学生が取り巻き、まるで争奪戦のようでした。でもとても癒されていましたね。

